

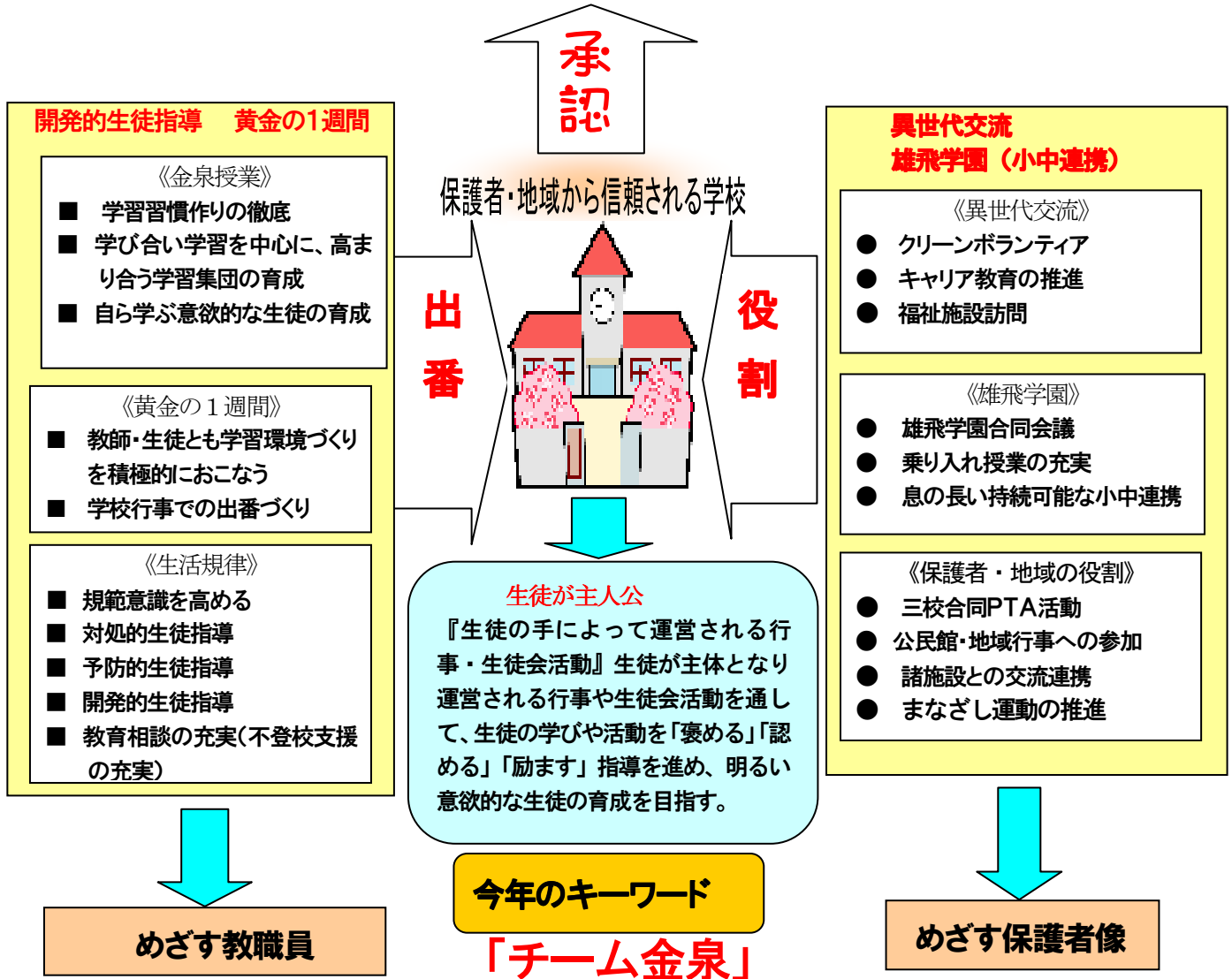
平成24年度教育課程について

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

元気あふれる学校

生徒が変わり、保護者が変わり、教職員が変わり、地域が光り輝く



開発的生徒指導 黄金の1週間

《金泉授業》

- 学習習慣作りの徹底
- 学び合い学習を中心に、高まり合う学習集団の育成
- 自ら学ぶ意欲的な生徒の育成

《黄金の1週間》

- 教師・生徒とも学習環境づくりを積極的におこなう
- 学校行事での出番づくり

《生活規律》

- 規範意識を高める
- 対処的生徒指導
- 予防的生徒指導
- 開発的生徒指導
- 教育相談の充実(不登校支援の充実)

異世代交流 雄飛学園 (小中連携)

《異世代交流》

- クリーンボランティア
- キャリア教育の推進
- 福祉施設訪問

《雄飛学園》

- 雄飛学園合同会議
- 乗り入れ授業の充実
- 息の長い持続可能な小中連携

《保護者・地域の役割》

- 三校合同PTA活動
- 公民館・地域行事への参加
- 諸施設との交流連携
- まなざし運動の推進

めざす教職員

- ① 分かる授業づくりと研修に励み、自己の指導力を高める教師
- ② 生徒の育成のために連携し協調できる教職員
- ③ 「全体の奉仕者」を自覚・実践できる教職員

今年のキーワード

「チーム金泉」

めざす保護者像

- ① 明るい家庭づくりに努める保護者
- ② 優しさの中に厳しさのある保護者
- ③ (PTA等の)組織(集団)として、協力して活動し、人間関係力の手本を示せる保護者

(2) 目標達成のための基本方針

① 対処的生徒指導

～生徒一人一人の成長を見通した対処的生徒指導～

問題行動等が発覚した場合には、子どものその後を見通した開発的かかわりを職員、保護者等が理解した上で対処的生徒指導を進めます。対処的生徒指導では職員の組織的対応を念頭に置きながら、生徒・保護者へは不安感、不信感、威圧的なイメージを与えるのではなく、生徒がより良き成長を遂げる教育的手立ての理解を求め、保護者および関係機関と協力し合いながら対処的生徒指導を展開します。

具体的には、問題行動にかかわる情報収集、及び情報選択を的確に行いながら、個別に対応する対処的生徒指導のプランを保護者を含む関係者に提供しながら全職員で開発的かかわりへの進展を図ります。

② 予防的生徒指導

～開発的かかわりへと進展するための予防的生徒指導～

本校学校づくりの柱である「黄金の一週間」の取り組みを予防的生徒指導に生かします。黄金の一週間では大きな節目のはじめの一週間（「一週間」は一週間と限定したのではなく適切な期間のことを言う）と終わりの一週間の中で学校・家庭生活の両面から「出番・役割」に対する意識や自己の学力を向上させる為の意識を高めることができるような手立てを仕組みます。

そのためには、学校内外の教育活動における「出番・役割」の必要性と重要性を生徒とともに学校全体で理解します。また、意図的な「出番・役割・承認」による開発的かかわりが予防的生徒指導ともなり、その積み重ねが子ども一人一人の事故回避能力の育成、及び、自己伸長能力の育成につながることを重要視し、予防的生徒指導が開発的かかわりの手立てとなるよう予防的生徒指導を展開します。

また、「黄金の一週間」という視点を通した対処的生徒指導、予防的生徒指導の価値観を本校職員、生徒のみならず、校区内の両小学校とともに、保護者、地域の方々全てが理解し、意図的に実践できるようにその理念を浸透させます。

③ 開発的かかわり

～生徒の良さを多角的に見つめ、生き生きとした姿に導く開発的関わり～

「黄金の一週間」「異世代交流」の視点を明確にしなが、学校行事にかかわること、金泉授業にかかわることによって進めていきます。学校内教育活動における出番、役割は生徒一人一人の実態に応じた出番、役割の設定を行い生徒一人一人に学校外からの承認を得ることができるような活動も進めます。

特に金泉授業では、「生きる力」をはぐくみ「学力向上」を目指すための授業として位置づけ、授業におけるその手立てを各教科で構築していきます。生徒指導の3機能である「自己存在感」「自己決定」「共感的人間関係」を授業の中に位置づけた授業を展開していきます。

④ 保護者・地域連携

～学校教育から「子どもへのまなざし運動」を発信～

地域での「出番・役割・承認」を進めていきます。現在、町民運動会やほんげんぎょう等の地域行事の中に中学生の出番を作っております。地域の活動に参加する子どもに地域・保護者は、意図的に承認することで、地域の良さや地域の人々の温かさを感じ、地域を愛する心を育みます。さらに平成21年度から進めている三校合同PTAの組織をさらに進めていきます。

⑤ 雄飛学園（小中連携）のさらなる充実

～息の長い持続可能な小中連携と金泉校区の子どもが抱える課題解決～

小中連携は6年目を迎えます。毎年12月に開催している新入学説明会は、生徒会を中心とした企画運営で司会進行も生徒の手で行っています。先輩の心温まる会の運営により新入学予定の児童は、中1ギャップの解消につながり、中学校に夢と希望を持って入学してきています。小・中の職員にとっても、お互いを理解し協力し合う人間関係が構築されようとしています。2年前より、小中連携事業として、学期に1回「小中合同授業研究会」を実施しました。授業参観と合同研究会を開催することにより9年間をみこした雄飛学園の教育をつくるきっかけになったと思います。本年度も実施することにより確かな学力の定着と豊かな心を育む教育に繋げていきます。

2 本校の教育の特色

① 地域性とPTA活動との連携から見た本校教育

ア. 本校の校区は、古くから文化遺産やエヒメアヤマメ等の絶滅危惧種を有しています。豊かな自然環境や社会環境を生かし、自分の地域に誇りを持つ人材育成を心がけています。

イ. 地域の方々の教育に対する関心は高く、現状を認めながらもさらによりよいものを求める熱意に満ちています。地域ぐるみで一枚岩の教育を目指す本校の姿勢にも協力的です。

雄飛学園三校連絡会では、三校のPTAが自主的に会を企画し、小中連携事業に対する理解を深めるための研修会やPTA新聞等の作成に尽力されています。特に平成21年度から広報委員会が中心になり三校合同PTA新聞「雄飛」の発刊がなされました。年間3号の合同新聞の発行は画期的なものとなりました。

平成22年度からは、元PTA役員・元金泉中学校区教職員による「雄飛の会」が発足しました。PTA活動の良きアドバイザーとして雄飛学園の教育をサポートいただいています。また、月初めの月曜日、雄飛の会による挨拶運動も定例化しています。

平成21年度より雄飛学園PTAスポーツ大会・懇親会を開催し親睦を深めています。毎年7月第1日曜日には3校合同雄飛学園バザーを久保泉小学校で実施し大盛況を納めています。平成24年度も小中連携を含めた地域連携がさらに深まるよう雄飛学園PTA連絡会が主体となって、地域ぐるみの子育てを進めていきます。

② 「揃っていく」開発的生徒指導の発展

ア. 上記のような教育環境（学校文化・家庭地域文化）のもとで生徒一人一人の良さを引き出し伸ばすという開発的かかわりを平成24年度も継承していき、子どもに内在している良さの可能性をさらに引き出していこうとする意欲的・積極的な指導を行います。

年間を通して、生徒は、「黄金の一週間」を意識して行動することができています。学活ノートや始業式、終業式時の決意発表、振り返り発表の中でも「黄金の一週間」を意識したものがありません。このことにより、基本的な生活習慣はもちろんのこと、集団生活のルールも一人一人が意識し互いに気づきあいながら学校文化が形成されてきました。開発的かかわりにより、従来対処的に行っていた生徒指導のあり方も開発的となり、教師による「揃える生徒指導」ではなく、生徒自らの力で「揃っていく」生徒像が確立されつつあります。また、生徒指導の視点「0基準」を生かし、個々の成長に従った指導を実践し、一人一人を大切にされた教育を充実させます。この学校文化が金泉中学校の特色として根付くことができるように生徒と職員、保護者地域の方々が丸となって開発的かかわりを進めることができる学校づくりに邁進します。

イ. 規範意識の高まり

生活指導面においても「儀式的行事」「旅的行事」など集団行動においても身だしなみをはじめ厳粛な雰囲気と整然とした整列などを生徒一人一人が意識できるようになりました。これは、開発的生徒指導の見直しを持った予防的生徒指導の繰り返しによって生徒ができるようになったことです。このような生徒一人一人の意識が集団としての良さとして一人一人が認識し、受け継いでいくことができるような開発的生徒指導を継続的に進めます。

ウ. 生徒指導の三機能を生かすための手立てを工夫した金泉授業の工夫

開発的かかわりの根源にある生徒指導の3つの関わり方として、①共感的な関係をはぐくみながら関わる②自己存在感を与えながら関わる③自己決定の場を与えながら関わるという方法「生徒指導の三機能」があります。本校の金泉授業では、この三機能の効果を高める手立てを教科・領域等においてその手立てを仕組みます。授業では常に生徒一人一人が自尊感情を高めながら授業に参加することができるような展開を心がけています。教科や単元によっては『学び合い』の手法を取り入れた授業も行っています。常に生徒の実態や教科の特性を考慮した授業になるように教材研究を行います。また、生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした金泉授業を展開するなかで、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力をはぐくんでいきます。また、家庭・地域との連携を強力にすることで、家庭学習の充実につなげていきます。

エ. 開発的かかわりの原点である学級づくり

学級経営においては全7クラス（特別支援1クラスを含む）という中規模校の良さを生かし、職員一人一人が全クラスの担任という意識を持って生徒一人一人へのかかわりを大切にしています。学級は、自己に応じた「出番・役割」に開発的かかわりの原点に値する場です。係り活動や班活動、または行事等では学級全体で取り組む場があります。その一つ一つの場で開発的かかわりが実践されます。学級での「出番・役割」を大きな自信とし、より大きな舞台に臨むことができるよう学級づくりを進めたいと考えています。

さらに、一つ一つの承認が自信となり、いろいろな場面での「出番・役割」に発展することができるような開発的かかわりを進めます。

3 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

元気あふれる学校

金泉授業

- ・一人一人の生徒の実態に応じた出番・役割の場を設定し一人一人の良さを引き出し、伸ばすとともに「承認」の充実を図る

生徒中心活動

- ・学校行事の中で生徒の出番・役割の場を保障する。
- ・開発的生徒指導の実際を生徒間で受け継ぐ。
- ・「異世代交流」「黄金の一週間」を意識した生徒会活動を推進する
- ・一人一役「一人一人が学校づくりの一員」の自覚。(1年新入学研修からスタート)
- ・金泉中環境ISOの日々実践

生活規律

- ・基本的な生活習慣の定着を図り規範意識を高める
- ・遅刻「0」をめざす
- ・できていることをみんなで認める

地域応援団によって開かれた学校

地域活動

- ・地域の豊かさを生かした学習活動の推進
- ・先人の思いを受け継いだ地域貢献活動の実施

ふれあい活動

- ・子どもと家庭の良さが一目で分かる通知表の工夫
- ・PTA学年委員さんとの連携による「親子ふれあい」活動の実践
- ・雄飛学園PTAスポーツ大会：PTA会員・雄飛の会・聖華園職員・3校の教職員による親睦を目的としたスポーツ大会の開催

地域公開活動

- ・いつでも参加・参観できる地域公開授業の実施
- ・施設開放で地域に貢献する

雄飛学園事業

- ・雄飛学園PTA連絡会による地域連携
- ・三校合同新聞の発行
- ・三校合同バザー、資源物回収の実施
- ・三校の保護者と教職員による親睦スポーツ大会の開催
- ・雄飛学園地域応援団の拡充を目指した地域連携活動の充実
- ・雄飛学園小中連携行事と教科等連携の充実
- ・年3回の雄飛学園連絡会の開催
- ・雄飛学園OB・OGによる「雄飛の会」の活動

(2-1) 幼保小中連携の取り組み

① 幼保中の連携

- 毎年、金立公民館、久保泉公民館の子育てサロン「ぴよぴよクラブ」「すくすくクラブ」と本校家庭科の授業(2年生)がタイアップした異世代交流活動を展開させています。昨年度も2学期に金立幼稚園で、技術・家庭科「幼児教育」単元の実習を行いました。今年度も実施する予定で計画をたてていきます。

② 小中連携(雄飛モデル)

- ア. 小学校への出前授業を実施し、教科の連携を充実させます。
美術…スケッチ大会前後の指導, デッサン・クロッキー指導。
体育…運動能力テストの事前指導, 各種部活動顧問による専門種目の助言・指導
音楽…連合音楽会, 入学式・卒業式の式歌練習で指導
国語・数学・社会・理科・英語…授業進度を考慮しながら, 小学校の教科の内容に合わせたり, 発展学習的内容を取り扱ったりします。
小学校外国語活動への出前授業は, 中学校英語で実施します。また, 中学校英語担当教諭が小学校外国語活動の支援としてALT的な役割をしながら授業参加します。
- イ. 「学び合い」「人権・同和教育」を中心に小中合同授業研究会を年3回実施します。

③ 小→中TT授業

中学1年生の「新入生研修」(5月実施)における授業支援を行います。

④ 小6部活動体験 + 中学校授業体験

毎年8月第4週目に開催している。開発的かかわりでプログラムした部活動体験を実施する。開発的かかわりの視点は、金泉中学校部活動を小学6年生が体験するものですが、いろいろな活動を体験することにより、より多くの中学生とのかかわりをはぐくむことにあります。また、小6部活動体験の日程内に、中学校授業体験を行います。昨年度は、理科、音楽、英語の3教科で実施しました。金立小学校と久保泉小学校を縦割りの3班に分け実施しました。中学生はT2の役割を担いながらスタッフの一員として「番」に挑戦し「役割」を責任もって果たしました。本年度もさらに継続した活動になるようにしていきます。

⑤ 新入学説明会

12月の第1週目に実施予定。毎年好評を得ている新入学説明会を今年度も生徒会と実行委員会が開発的かかわりにより企画運営します。ねらいとして小6児童の中一ギャップ解消、児童生徒のつながりを重視しながら、中学校情報の発信として価値付けします。

⑥ 児童会生徒会連携

両小学校の児童会小中連携とともに、中学校生徒会の取り組みを紙媒体やHPを通して交流します。取り組みを紹介したカードを各学校掲示することで、児童生徒間の間接的なかかわりが期待できます。また、昨年度のパワーアッププランで購入したiPadを活用し、交流の様子を生徒会朝会・生徒総会等で紹介していきます。

⑦ その他学校行事を通じた児童生徒の交流

体育大会では、毎年、小学生と本校生徒が一緒に行う種目を実施し、交流をしています。本年度も生徒会を中心に企画していきます。

⑧ 雄飛学園PTA連絡会

ア. 地区行事の精選と共同開催

現在、小学校区ごとに行われている地区行事の精選と共同開催の実現に向けて、平成20年度末から協議が行われています。資物回収・バザーを三校共同で実施するようになりました。また平成21年度よりPTA新聞の共

同発行を行うようになりました。地域の活性化と児童生徒への開発的かかわりの拡充となるよう協力していきたいと考えています。

イ. 地域応援団の活用

校外学習や小中連携などの学習場面では、多様な援助を要請し児童生徒への開発的かかわりを深めます。具体的には、校外学習での交通立番、学校行事での「出番・役割」に対する承認活動等です。

平成22年1月より、パン販売ボランティアに2名の方が週1回来てくださっています。いつも中学生とのコミュニケーションを楽しんで、お仕事をさせていただいております。

(2-2) いじめ・命を考える取り組み

① 全校集会での取り扱い

月初めの全校集会におけるテーマに基づいた講話をします。日常のニュース等から職員が各自テーマを設定し、全校生徒の前でいじめや命に関する話を毎月します。

② 人権集会

年に1回、人権集会を行っています。この会も開発的かかわりを生かし生徒による実行委員会方式で企画運営が行われています。今まで行った人権に関する学習のふりかえりとディベート活動を通して、いじめ・命について深く考える学習を行っています。毎年8月には平和集会を開催し、平和・命の大切さを学んでいます。本年度は6月10日(日)フリー参観デーの「ふれ合い道徳」の中で人権集会・ディベート等を行う計画を立てています。

③ 毎月の「お話タイム」

月初めにお話タイムを昨年に引き続き平成24年度も設定します。お話タイムでは、全教職員が定期的に朝の会の設定された時間にいじめや命、進路・学習面について話をします。

④ 生活アンケートの実施

生活アンケートでは必ずいじめに関する項目をおこし、いじめの把握に努めます。また学活ノートの点検を全学年、全クラスで行い、生徒の実態把握に努めます。昨年度は、雄飛学園三校の生活部の連携により合同生活アンケートを実施しました。内容を検討し本年度も行う予定です。

⑤ 教育相談期間の設定

教育相談期間では、必ずアンケートに基づき、カウンセリングマインドを重視し、いじめのない学校、命を大切にすることができる子どもの創造に努めます。本年度も6月と11月に実施予定しています。

(2-3) 市民性をはぐくむ取り組み 子どもへのまなざし運動

開発的かかわりを生かした教育活動で生徒一人一人の良さが伸び、一人一人の良さの伸びの集合体が学校文化を創造します。また、家庭や地域が、生徒の良さの伸びを意図的に承認し合う教育的環境が定着すれば、それは地域・家庭文化として創造されていきます。このような教育的文化の創造には、学校行事、地域行事を通じた保護者、地域の方々とのかかわり、年少者(主として小学生)とのかかわり、また授業を通じたゲストティーチャーとのかかわりがあります。市民性を育むということは、より多くの世代の人々とかかわる中で、人の温かさや地域のすばらしさに触れたり感じたりすることができることです。はじめに教師集団が学校内外の教育活動に市民性をはぐくまれる視点を持ち、以下の教育活動に位置づけていきます。

① 各教科・領域等で市民性を育む

教科・領域等の単元に応じて「市民性を育む教育」の視点を明らかにします。明らかにされた単元の授業実際場面において市民性を育む教育を展開します。昨年度は、キャリア教育や1年生宿泊学習会の講師として保護者や地域の方に講師として講話をして頂きました。本年度も「地域の豊かな人材」を積極的に生かすよう授業場面において地域人材の活用を進めます。

② 開発的かかわりの広がりの中で市民性を育む

「承認」場面を児童生徒相互及び職員だけでなく保護者、地域に広げることでかかわりの範囲が広がります。保護者、地域の方々への承認が児童生徒にとっては人の温かさや地域の豊かさに触れる・感じる場面となりひいては、その承認活動が市民性を育むこととなります。平成24年度も「承認」の方法を充実させるとともに、保護者、地域の方々からの「意図的な承認」活動をしていただくことができるように地域に根ざした開発的かかわりを展開します。「学校情報携帯メール配信システム」を有効活用し、危機管理上の情報だけでなく生徒の「出番」「役割」を「承認」しています。本年度も「学校情報携帯メール配信システム」を有効に活用していきます。

③ 地域の核である公民館との連携の中で市民性を育む

地域の核である公民館との連携をはかりながら、公民館主催の行事に積極的に参加していきます。毎年、町民体育大会・少年の主張大会、校区対抗駅伝、クリスマスサンタのプレゼント配達等に参加しています。本年度も積極的に参加していきます。

④ 子どもへのまなざし運動の推進

学校行事全般を通して、子どもへのまなざし運動の実践を行います。体育大会や文化発表会はもとより、フリー参観デー、環境学習やキャリア学習の発表会など保護者と地域に呼びかけ子どもの出番を承認してもらっています。また、2ヶ月に1回（土・日）実施しているクリーンボランティア活動は地域住民にも参加を呼びかけ地域の方と子どもたちが協力してゴミ拾いを行っています。このボランティア活動は、地域との交流を深める機会として定着してきました。平成22年度より金泉中学校生徒会が行っているアルミ缶回収を久保泉・金立の両小学校や公民館・地域に広げる活動として継続して行っています。今年度もさらに保護者・地域に広報・啓発を推進していきます。

(3) 指導の重点

<p>指導の重点 各教科</p>	<p>① 「金泉授業」を確立し展開します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 金泉授業とは、生徒指導の三機能を効果的に生かした授業です。生徒一人一人の実態に応じて、出番、役割を設定し、承認し合うことができる授業を仕組み、自尊感情を育て、一人一人の良さを伸ばします。そのために、指導案に三機能：「共感的な理解」・「自己存在感」・「自己決定」を明記します。参観者や参加者に分かるように授業場面に仕組む三機能の理解を保護者、地域の方々にも広めます。平成20年度より、生徒指導の三機能の効果を高める手立ての研究を教科ごとに始めました。・ 国語：生徒指導の三機能を生かした金泉授業を意識し、生徒が「自己決定」する場を増やすことで「自己存在感」を高め、「共感的な理解」を継続的に示していくための工夫を試みています。具体的には、「自己評価の工夫」と「多様な音読」の仕方を導入することで、読解力はもちろん漢字や語句の習得も目指します。特に「指名なし音読・発表」は、単純な活動の中にも多面的に効果をあげる要素が含まれており、積極的に取り組んでいきます。・ 数学：金泉授業を基盤に、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てます。 『学び合い』の場面を設定し、教えあうことでより確実な理解につなげられるように工夫します。・ 理科：金泉授業を基盤に、自然の事物・現象に進んで関わり探究する授業を推進します。実験・観察の目的を明確にし、積極的に実験・観察に臨むことができるように指導します。正しい操作・手順を身につけさせ、安全に学習ができるように指導します。実験結果・まとめ・考察を通し科学的に思考・判断する力を育てます。また、身近な自然の事物・現象について積極的にかかわり環境の保全に寄与する態度を養います。・ 社会：『学び合い』の学習形態の中で特に言語力育成をめざします。資料から必要な情報を取り出す力、資料をもとに推論する力、調べたこと、考えたことを自分の言葉で表現する力の習得、活用につなげるためのワークシートの工夫を
----------------------	---

	<p>します。</p> <p>『学び合い』を通し理解が遅れ気味の生徒にも基礎・基本の定着を図ります。教師は、生徒が課題解決をする度に「承認」し自信をつけさせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語：生徒指導の三機能を生かした金泉授業を意識し、生徒が「自己決定」する場や「共感的理解」を得られる場を増やしています。具体的には、授業の冒頭に帯学習として会話の時間を設けます。自己表現能力を身につけるとともに、ペアワークやグループ学習の実践を通し英語の運用能力を育成します。 ・ 音楽：表現及び鑑賞の活動を通して、さまざまな音楽の良さを感じ、表現への意欲を高めていきます。そのために、音楽を構成している諸要素に気づき、音楽の良さや特質を感じ取り、思考・判断する力を育成します。また、諸活動を通して、音楽が好きになり、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度を育みます。 ・ 美術：造形表現の多様な方法の中から、自己表現の可能性を探っていくことを目的とします。絵画、彫刻、デザインなど造形表現の基礎的な技法や知識を学習し、作品制作、または鑑賞に活かす能力を養います。豊かな情操教育の基盤となるよう美術をたしなむ態度を育みます。 ・ 保健体育：課題を踏まえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できるように指導します。 心と体をより一体としてとらえ、心身の健全な成長を促します。本年度より本格実施する武道については、剣道を通して礼法や安全に対する心得を理解し、構えや体さばきなどの基本動作を身につけさせます。 学習したことを実生活、実社会において生かすことができるように、健やかな体を育む教育を推進します。 ・ 技術・家庭： 【技術分野】ものづくりなどの実践的・体験的な学習を通して、材料と加工、エネルギーの変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、自尊感情を育成し、技術を適切に評価・活用する能力と態度を育てます。 【家庭分野】衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、自己存在感とともに振り返り承認されることを通して生活をよりよくしようとする能力や態度を育てます。 <p>② その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータや新聞、最新の機器やデータを利用するなど学習内容への興味関心を高める最新の教材を工夫します。 ・ 地域の方々が参加しても新鮮な発見がある授業づくりに努力します。 ・ 各教科で小中連携の出前授業を推進します。 ・ 生徒の学力・学習状況の定着を全国標準テスト（NRT）、佐賀県学力学習調査・全国学力・学習状況調査等で生徒の実態を把握・分析、検証をしながら、より伸ばすところや伸ばしてあげたいところを支援し学力を高めます。
<p>道徳</p>	<p>① 道徳の授業でも「金泉授業」を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の時期は自分で見つけ、他者との関わりを身につけ、自然や崇高なものへの心構えを作り、集団や社会との関わりを身に付ける大切な時期です。本校では道徳の4領域24項目を、開発的生徒指導のもと、出番や役割を通して人とのかかわりの中で学んでいくようにしています。そのために次のことを留意します。 ・ 道徳性を実践する生活場面を身近な校内から徐々に金泉校区全体に広げる教材開発をします。 ・ 学校行事や異世代交流等を通して保護者、地域の方々と生徒と一緒に考える体験的道徳を展開し、道徳性の向上に努めます。 ・ 小中連携の「雄飛学園」構想に基づき、9年間を見通した授業づくりを心がけます。
<p>特別活動</p>	<p>① 学級は学校における生徒のよりどころです。一人一人の自己存在感を高めることができる学級活動の充実を図ります。</p>

	<p>② 学校全体、学年全体で位置づけた黄金の一週間の意識付けと取り組みを学級で具現化し、生活面における心構えと見通しを持ちます。</p> <p>③ 学級経営案を作成します。校内研修では、各担任が作成した学級経営案を全職員で共通理解し、学級づくりに全職員で取り組みます。</p> <p>④ 各行事では生徒の個性伸長のため、一人一人の出番、役割を学級、学年の利益として捉え仲間とともに成長することの大切さが分かる集団づくりを実践します。</p> <p>⑤ 三年間の成長を見通し、各学年での目標を立て段階的に望ましい集団づくりを行います。</p> <p>⑥ 生徒会活動を校内実践から地域実践まで発展させ活性化させます。</p> <p>⑦ 地域の方々に参加していただき、人と人のふれあう学校行事や生徒会活動を目指します。</p> <p>⑧ 新1年生では、5月に「元気あふれる学校の研修」を実施します。一人一人が出番、役割を体感し、承認を得ます。また、そこには、小学校旧担任が参加します。また、地域よりゲストティーチャーを招き「中学生に望むこと」(仮題)と題して講話をいただき、市民性を育みます。</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>① 小中で連携し9年間で身に付けさせたい能力や力を発達年齢ごとに設定します。設定した身に付けさせたい能力をもとに、内容領域を策定し、身に付けさせたい能力や力に連続性と系統性を持たせます。</p> <p>② 設定した能力や力を身に付けさせるために、課題発見、課題設定、問題解決、情報収集、情報処理、表現力という学習のプロセスを大切にしながら学習計画を立てます。</p> <p>③ 雄飛タイム(本校総合的な学習の時間の名称)においても、生徒指導の三機能と開発的生徒指導が実践され、保護者、地域の方々からの承認場面の設定、全校集会等での各グループの承認場面を設定します。</p> <p>④ 情報リテラシー(本校では情報機器の操作能力だけではなく、「情報を活用する創造的能力」のことととらえ、情報手段の特性の理解と目的に応じた適切な選択、情報の収集・判断・評価・発信の能力、情報および情報手段・情報技術の役割や影響に対する理解など、“情報の取り扱い”に関する広範囲な知識と能力のことと共通理解しています)を育てます。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>① 開発的かかわりを徹底します。</p> <p>ア. 保護者、地域の方々は、教育活動における生徒一人一人の良さの伸びはもちろんのこと、身だしなみやあいさつなどの基本的な生活習慣の向上も厚く望んでおられます。また、やがて社会の一員として活躍する生徒に対して、この時期に基本的な生活習慣を徹底させることは大変重要なことです。そこで、生徒会が主体となって「身だしなみを整える」「時間を守る」「気持ちの良いあいさつをする」を徹底します。</p> <p>イ. アの活動の地域応援団の支援事業として、PTA活動「朝の挨拶運動」を展開し、保護者、地域の方々の温かさに触れることを大切にします。</p> <p>ウ. 対処的生徒指導、予防的生徒指導も日々実践する中で、個々の指導が開発的かかわりに結びつくことができるようにかかわりをつなげていきます。</p> <p>エ. 教育相談を重視し、日ごろから生徒の実態把握に努めます。</p> <p>オ. 生徒の良さを伝え合う学校⇄家庭間の緊密な連絡体制を構築します。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>① 一人ひとりに必要な支援を、将来の進路まで視野に入れて、構想します。</p> <p>ア. 特別支援教育に関する研修を深め、年度当初に個別特別支援計画を立案し実践します。</p> <p>イ. 特別支援協議会は生徒指導協議会と連動させ、生徒一人一人を支援する協議を深め、常に全職員での共通理解・共通実践を図ります。</p> <p>② 開かれた支援学級を経営します。</p> <p>ア. 交流できる授業や場面を可能な限り広め、その中での活動を支援していく態勢を整えて対応していきます。</p> <p>イ. 全職員がかかわれる機会を多く取り入れ、本校の「出番・役割・承認」の場を広く求めています。</p> <p>ウ. 進路を見つめ、自己理解と可能性を追求し、豊かな人生設計を培います。</p> <p>③ バリアフリーの校舎(エレベーターつき)を生かし、人に優しい行動を育みます。</p>

<p>人権・同和教育</p>	<p>① いじめや差別を許さない集団づくりを日頃から育みます。 ア. 1年生時の研修会ではグループエンカウンターで仲間づくりをします。 イ. 授業では『学び合い』を取り入れ集団づくりに生かしています。</p> <p>② 地区の社会人権・同和教育との連携を図ります。 ア. 人権・同和教育研修会を開始し、職員の研修に努めます。 イ. 金立公民館主催の人権・同和教育研修会では、小中合同で参加し研修をします。</p> <p>③ あらゆる教育活動の場における人権・同和教育の推進をめざします。</p> <p>④ 人権作文・標語を学校生活の中で取り入れていきます。</p> <p>⑤ 人権集会を開催して（6月10日）全校で人権についての意識を高めます。 ア. 実行委員会を立ち上げ生徒主導の集会 イ. 全校で人権についてのディベート ウ. 金立養護学校との交流を通して個性の尊重を学習します。</p> <p>⑤ 学校を開き、人権と共生の視点で、PTAや地域への積極的な啓発に努めます。</p> <p>⑥ 2年1学期の江戸時代の身分制度の授業には全教職員が参加し、前後の道徳授業や集会を含め、人権感覚を磨きます。また、1, 2年生の道徳では「菜の花」「招かれなかったお誕生日会」「夕やけがうつくしい」を学習します。3年生では進路学習の中で就職差別を学び、人権・同和教育を展開します。</p> <p>⑦ 年度当初の人権・同和教育の年間計画、6月の金立校区人権・同和研修会、雄飛学園人権・同和教育研修会、8月の佐賀市人権・同和教育研修会、12月の人権集会等、校内での日頃の取り組みを通して子どもと共に発展させていく場を柱として充実させていきます。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>① 本校では、1年から3年まで「生きる」というテーマで内容領域を策定し、学年ごとに「生きる」の中にキャリア教育の視点を位置づけます。また、内容領域「生きる」は小中連携においても、9年間の系統性、連続性のある「総合的な学習の時間」の内容領域で策定します。</p> <p>具体的には、1年生では「職業調べ」、2年生では「職場体験」、3年生では「進路実現」という内容でキャリア教育を進めます。また、本校のキャリア教育は、「市民性を育む教育」の視点を取り入れるため、金泉校区内の企業や金泉校区在住の職業人への職場体験を進めます。受け入れ先の企業とは事前の打ち合わせで「出番・役割・承認」を理解していただき、生徒一人一人の実態に応じて市民性を育む教育を展開していただきます。</p>
<p>教育課題への対応</p>	<p>① ワンフロアーの職員室を生かした生徒理解 ② 学校版環境ISOおよび各教科等における環境教育の充実 ③ 校舎内外の清掃、整理整頓の徹底 ④ 掲示物の整備工夫、学校緑化、学校評議員制度の推進</p>